

ソビエト占領下ドイツザクセン州におけるスポーツ 改革に関する研究

著者	寶學 淳郎
雑誌名	日本体育学会大会号
巻	48
ページ	134
発行年	1997-08-29
URL	http://hdl.handle.net/2297/18640

ソビエト占領下ドイツザクセン州におけるスポーツ改革に関する研究

○ 寶學淳郎 (筑波大学)

スポーツの戦後改革 ソビエト占領地区 ザクセン州

1. 研究の意図

本研究は、ソビエト占領下ドイツにおけるスポーツ改革を究明するための基礎的研究である。ブランデンブルク、ザクセン、ザクセン・アンハルト、チューリンゲン、メクレンブルク・フォアポメルンの五州によって構成されるこの地区は、ソビエト占領地区（以下SBZ）と呼ばれた。第二次大戦後ドイツを四つに分割占領したアメリカ、イギリス、フランス、ソビエト連合国の最高決定機関は、常設の四カ国外相会議であり、その下には連合国管理委員会が、その下には各占領地区の軍政があった。SBZの最高権力は、ソビエト軍政府（以下SMAD）が有していた。SBZにおけるスポーツ改革に関する従来の研究の多くも、占領下という特殊な状況やこのような行政機構を背景に、連合国管理委員会やSMADのスポーツ政策を重視してきた。しかしながら、これらの研究も各州のスポーツ改革については十分に明らかにしていない。それらを明らかにするためには、先ず各州が連合国管理委員会やSMADのスポーツ政策にどの様に対応し、スポーツ改革をどの様に展開していたのかを具体的に明らかにしなければならないであろう。各州のスポーツ改革については当然差異が予想されるが、本研究では、ザクセン州に焦点をあて、同州の法令集を手がかりに、同州におけるスポーツ改革を検討したい。同法令集は、主に連合軍管理委員会、SMADの諸規定、ザクセン州の諸規定、ザクセン州各地の報告によって構成されている。

II. ザクセン州における連合軍管理委員会、SMADのスポーツに関する諸規定

この時期、同法令集に掲載されたスポーツに関する連合軍管理委員会、SMADの諸規定は、1945年10月1日の連合軍管理委員会令第1号（ヒトラー・ユーゲント法の廃止や軍事訓練の廃止・禁止等）、同年10日の同委員会令第2号（国家社会主義体育連盟<以下NSRL>を含むナチ組織・団体の解散等）、同年31日のSMAD指令第126号（NSRLを含むナチ組織の財産差し押さえ等）、同年11月30日の連合軍管理委員会令第8号（軍事訓練の廃止・禁止）、1946年4月10日の同委員会令第23号（飛行艇基地、射撃・訓練施設を含む軍事施設の禁止）、同年11月9日の同委員会訓令第45号（スポーツボートの軍事的利用の禁止等）などであり、これらはスポーツの非ナチ化、非軍事化を規定するものであった。

III. ザクセン州政府のスポーツに関する諸規定

スポーツに関係する最初のザクセン州の諸規定は、1945年9月6日の行政矯正に関する命令（NSRL関係者を含むナチの行政機関からの排除等）のように思われる。連合軍管

理委員会、SMADの諸規定以前に同州政府がNSRLの関係者を活動的なナチと明確に位置づけていることが特徴的である。

翌9月7日には反ファシズム青少年委員会設立に関する命令及びその実施規定が出された。同命令及び実施規定において、スポーツは、青少年に其の生活の喜びを享受させるものとして、また、反ファシズムの青少年活動に幅広い階層の青少年を獲得する手段として位置づけられた。そして、委員会にスポーツ担当を設け、国防スポーツに類さない非軍事的な青少年スポーツを州として助成することが定められた。他方、同命令は、反ファシズム青少年委員会以外のスポーツ組織を禁止するものでもあった。1946年1月21日の学校矯正命令に関する第2実施規定では、教育部門の課題として、遊戯グループの組織、スポーツ行事の開催等があげられている。

1948年5月17日のスポーツフィッシング組合等の解散を定めた命令に関して重要と考えられるのは、同命令が、1945年12月17日の連合軍管理委員会訓令第23号に基づいたものであると記されていることである。このことから、ドイツ降伏以前に存在したスポーツ的、軍事的、準軍事的競技団体の解散を指示する一方で、州レベルを越えない地域的性格の非軍事的なスポーツ組織の再建を認めていた訓令第23号がこの時期依然として同州において有効であり、スポーツが強く制限されていることが窺える。

IV. ザクセン州におけるスポーツの状況

この他、同法令集にはザクセン州の各地からの報告が掲載されている。1946年6月3日のStendalの報告には、連合軍管理委員会令第8号（1945年11月30日一軍事訓練の廃止・禁止）に従って解散すべき組織・団体として12のスポーツ組織・団体が記されている。また、同年11月29日のLiebachの報告には1946年10月1日のザクセン州司法機関の命令に従って解散すべき組織・団体のリストが掲載され、中には2つのスポーツ団体の名が見られる。以後の各地からの報告にも解散すべき数多くのスポーツ団体・組織の名が掲載される。そこから窺えることは、スポーツの再建ではなく、戦前から存在した伝統的なフェラインの徹底した解体の様子である。

V. 結び

ザクセン州法令集を見る限り、ソビエト占領下ザクセン州では、連合軍管理委員会、SMADの諸規定に従い、スポーツの非ナチ化、非軍事化が徹底して遂行されたように思われる。特に戦前から伝統的なフェラインは一貫して禁止され、存在するものに対しても解散が指示された。州によるスポーツの助成に関しては、比較的早い時期から見られたが、青少年委員会、教育部門に限定されたものであった。